

(第1面)

<p>産業廃棄物処理計画書</p> <p style="text-align: right;">平成26年6月30日</p> <p>兵庫県知事 殿</p> <p style="text-align: right;">提出者 住 所 兵庫県加古郡播磨町宮西2丁目10番6号 氏 名 田岡化学工業株式会社 播磨工場 工場長 藤 井 健 夫 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 079-437-6125</p> <p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	田岡化学工業株式会社播磨工場
事業場の所在地	兵庫県加古郡播磨町宮西2丁目10番6号
計画期間	平成25年4月1日～平成26年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	1639 化学工業・有機化学工業製品製造業 その他の有機化学工業製品製造業
②事業の規模	製品出荷額 17,920百万円 (平成25年度全社実績)
③従業員数	116人 (平成26年4月時点)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 状	【前年度（平成25年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t
	(これまでに実施した取組) 工場の安定操業及び工場内廃水処理設備安定運転により、汚泥発生量は目標値との差異が少なくなった。廃油発生量も削減できているが、これは有価化の推進によるものである。	
② 計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t
	(今後実施する予定の取組) 平成26年度は工場内排水処理設備の安定運転を継続し、新設備(汚泥乾燥機)により排出汚泥量を減量化する。 廃アルカリは排水処理能力向上により発生量が減少するものとして考えられるが、一方で新規製品に対する処理能力確保が必須。	

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチックの処理用途向け分別管理、リサイクル用古紙の分別、ダンボール、ファイバードラム、廃油、廃汚泥等廃棄物を分別保管している。
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 従来の分別を引き続き継続していく。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 状	【前年度（平成25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	別紙のとおり	t
	(これまでに実施した取組) 特になし。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	別紙のとおり	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 状	【前年度（平成25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	別紙のとおり	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 廃水処理設備の維持管理により夏場の汚泥発生量が減少し、社外処理への排出量が減少した。平成24年10月からは乾燥機を導入し、さらなる減量化を図ってきた。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	別紙のとおり	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 現在の脱水条件で引き続き汚泥の脱水を実施する。 汚泥乾燥機による社外処理汚泥量の削減を継続実施する。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 状	【前年度（平成25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	別紙のとおり	t
	(これまでに実施した取組) 特になし。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	別紙のとおり	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 状	【前年度（平成25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	別紙のとおり	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 排出廃棄物は再利用する処理業者やサーマルサイクル、セメント原料化となる業者へ排出し、さらに、廃油は燃料使用とする有価化に注力した。その結果、有価化量が大幅に増加した。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	別紙のとおり	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>引き続き燃料化、サーマル燃料化、再利用を推進する。 併せて有価化できる範囲を広げられるよう検討を継続する。</p>		
※事務処理欄			

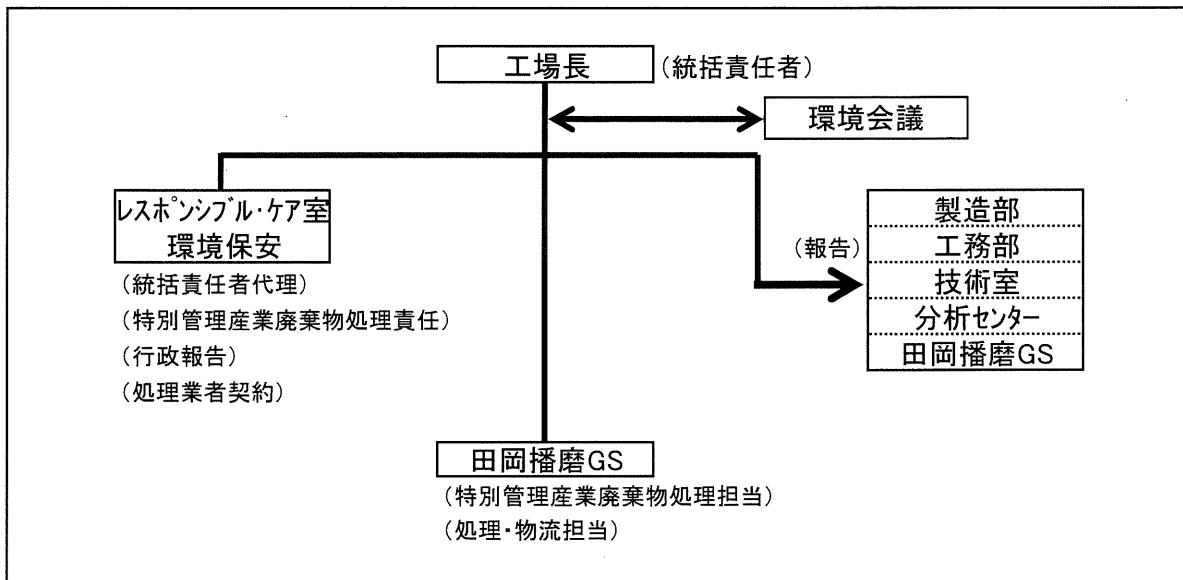
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の一連の処理の工程

別紙のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



<分担>

レスポンスブル・ケア室(環境保安)

- ・統合的な廃棄物減量計画の立案
- ・工場内の廃棄物処理計画等の策定、行政への報告
- ・処理委託業者の選定、廃棄物処理委託計画等手続き、引渡し、適正処理の確認
- ・工場内の他部署への関係法令等の教育

田岡播磨ジェネラルサービス

- ・廃棄物の配車手配、出荷業務

製造部、工務部、技術室、分析センター、田岡播磨ジェネラルサービス

- ・部署内発生産業廃棄物の発生量削減、分別、場内保管場所への運搬
- ・部署内での分別方法等徹底

産業廃棄物の排出に関する事項

●現状 前年度 (平成 25 年度) 実績

産業廃棄物の種類	廃油	アルカリ廃水	酸性廃水	廃プラ類	汚泥
排出量	157t	513t	0t	52t	5205t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	廃油	アルカリ廃水	酸性廃水	廃プラ類	汚泥
排出量	200t	500t	0t	50t	5000t

自ら行なう産業廃棄物の再生利用に関する事項

●現状 前年度 (平成 25 年度) 実績

産業廃棄物の種類	廃油	アルカリ廃水	酸性廃水	廃プラ類	汚泥
自ら再生利用を行なった量	0t	0t	0t	0t	0t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	廃油	アルカリ廃水	酸性廃水	廃プラ類	汚泥
自ら再生利用を行なった量	0t	0t	0t	0t	0t

自ら行なう産業廃棄物の中間処理に関する事項

●現状 前年度（平成 25 年度）実績

産業廃棄物の種類	廃油	アルカリ廃水	酸性廃水	廃プラ類	汚泥
自ら熱回収を行なった量	0t	0t	0t	0t	0t
自ら中間処理により減量した量	0t	0t	0t	0t	4753t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	廃油	アルカリ廃水	酸性廃水	廃プラ類	汚泥
自ら熱回収を行なった量	0t	0t	0t	0t	0t
自ら中間処理により減量した量	0t	0t	0t	0t	4500t

自ら行なう産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

●現状 前年度（平成 25 年度）実績

産業廃棄物の種類	廃油	アルカリ廃水	酸性廃水	廃プラ類	汚泥
自ら埋立又は海洋投入処分を行なった量	0t	0t	0t	0t	0t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	廃油	アルカリ廃水	酸性廃水	廃プラ類	汚泥
自ら埋立又は海洋投入処分を行なった量	0t	0t	0t	0t	0t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

●現状 前年度（平成 25 年度）実績

産業廃棄物の種類	廃油	アルカリ廃水	酸性廃水	廃プラ類	汚泥
全処理委託量	157t	513t	0t	52t	5205t
優良認定処理事業者	156t	504t	0t	17t	211t
再生利用業者	1t	9t	0t	33t	353t
認定熱回収業者	0t	0t	0t	0t	0t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者	0t	0t	0t	0t	0t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	廃油	アルカリ廃水	酸性廃水	廃プラ類	汚泥
全処理委託量	200t	500t	0t	50t	5000t
優良認定処理事業者	150t	500t	0t	20t	300t
再生利用業者	30t	0t	0t	30t	200t
認定熱回収業者	0t	0t	0t	0t	0t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者	20t	0t	0t	0t	0t